HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	日本語母語話者が失礼と感じるのは学習者のどんな発話か ： 「依頼」の場面における母語話者の発話と比較して
Author(s)	小池, 真理
Citation	北海道大学留学生センター紀要, 4, 58-80
Issue Date	2000-12
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/45588
Type	departmental bulletin paper
File Information	BISC004_005.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

北海道大学留学生センター紀要　第4号　(2000) [研究論文]

日本語母語話者が失礼と感じるのは学習者のどんな発話か

－「依頼」の場面における母語話者の発話と比較して－

小　池　真　理

要　旨

本稿では、日本語学習者の依頼の発話行為を母語話者に評価してもらい、失礼な印象を受けるのが学習者のどのような発話行為からなっているか、さらに同じ状況での母語話者の発話行為と比較して、どのような違いがあるのかを分析することを目的とする。まず、学習者の依頼のロールプレイを母語話者に見せ、自由に印象を語ってもらった。そのコメント中から失礼な印象、不安を感じると述べられた学習者の発話を取り出し、分析した。そして同じ場面での母語話者のロールプレイから得られた発話データと比較した。

分析の結果、「依頼」の場面において母語話者が失礼な印象を持ったのは、①終助詞「ね」の多用で、特に文節末における多用、②「明日時間がありますか」と突然尋ねる用件の切り出し方、③可能形を使った依頼表現、④聞き手とのネゴシエーションが不足した一方的な談話展開、であった。さらに、学習者の発話行為には母語話者のものと比べて、①聞き手の負担に遠慮を示す発話行為の不足、②相手の負担の軽減を提示する発話行為の不足、③聞き手の反応に応じたネゴシエーションの不足、が見られた。

〔キーワード〕発話行為、語用論レベル、依頼、負担軽減、発話断定回避

1.　はじめに

日本に来て、日本語を学習している外国人（以下、学習者とする）のいちばんの目標は、日本の社会で人々と円滑なコミュニケーションがとれるようになることであるだろう。ところが言語形式ばかりにとらわれていると、学習者の意志とは違って思わぬ誤解や摩擦が生じることがある。例えば、ある中国の学生が先生の家を訪問した際、帰るときにいつも「先生、

帰らせていただけませんか」と言っていたケースがある。本人は大変ていねいに話しているつもりである。だが文型としては丁寧であったとしても、この文脈で使用すると、丁寧でないばかりか相手の気分を害してしまうことさえあり得る。また、日本語母語話者が文末に「～んですけど／が」など言切りの形を取らない場合が多い（柏崎、1993）のに対して、学習者が「私が手伝います」「明日、休みます」など文末にます形を多用することで、相手の日本人の気分を害している例も、よく聞かれることである。

以上の二例は筆者の個人的な経験によるものだが、このような発話行為上の誤りは、発音、文法上の誤りと異なり、誤解を引き起こし、人間関係を悪化させる可能性がある。なぜなら、Hadden（1991）、Okamura（1995）、小池（1998）などの先行研究にもあるように、母語話者は、学習者が、発音、文法上のミスを犯しても、「今、勉強中の人だから」とか「外国人だから」と容認できる。だが、発話行為上の誤りは、表面にはっきり誤りとして表れないため、ともすれば、「この人は失礼だ」とか「礼儀知らず」とか、人格上の欠点と見なされやすいからである（Thomas、1983）。さらに、文法能力が上がり流暢に話せるようになれば、なおさら発話行為上の誤りが人格と結び付けられる可能性が高くなるだろう。

したがって、学習者は、コミュニケーション能力として、語用論レベルの知識を習得しなければならないであろう。Kasper（1989）は、この語用論レベルの知識というのは、他の知識、例えば、談話・意味・文法・音声・社会文化・世界に関する知識などと相互作用すること、コミュニケーションの目的を達成するために、これらの全ての要素を連合して相互交渉することと考えられると言っている。さらに、この連合を行うために必要な語用能力は、「話し手が発話行為を理解し、系統立てて表す方法を左右している適切性とポライトネスに関するルールの知識と運用である」とKoike（1989）は定義している。

また、高橋（1999）は、「Interlanguage Pragmatics」のパネルディスカッションでこれまでの研究結果のまとめとして、①教室内での語用論レベルの項目の指導は可能、②Metapragmatic information[1)] を明確に与えることが最も効果的、③Implicit conditionでの習得は困難であると報告している。そこで、教室内で学習者の語用能力を向上させることが重要な課題である。その為には、まず学習者の発話行為の語用論上の問題点を明確にすることが必要になってくるであろう。

2. 先行研究

先行研究においては、対話相手のフェイスを脅かす行為である「断り」に関する研究が行われている。生駒・志村（1992）は、英語から日本語へのプラグマティック・トランスファーによる発話上の誤用の研究を行っている。そして、有害なトランスファーとして、①依頼に対する断わりにおいて代案をあまり提示しない、②友だちに勧められた食べ物を断る際に「結構です」を多用する、③話し相手の地位によって、中途終了文の使用頻度をあまり変えることなく、直接的な断わりを多用することを挙げている。また、広瀬ら（1999）は、日本語、中国語、韓国語それぞれの母語話者の「断り」の発話行為の違いを報告している。そして、共通点として、①詫び-理由-不可が共通して使用頻度の高い意味公式である、②上下、親疎の変数の影響をいずれの母語話者も受けていることを挙げている。相違点として、日本語母語話者では「詫び」が多用されていて、それに対して中国語母語話者では「代替案」が多く使用され、韓国語母語話者では上下関係で理由を詳しく述べるかどうかに差が出ることを示している。

このように、「断り」という発話行為に関しては研究がさまざま行われているが、「依頼」に関してはあまり研究が行われていない。西郷（1997）は、学習者の「断り」と「要求」の言語行為に対する母語話者の印象を調査している。6段階評価させ、その決め手となった理由を記述させた結果、良い評価を受けた「要求」のベスト3は「丁寧」「明瞭」「良い要求」であったと報告している。そして、要求表現の丁寧度と回数が印象の善し悪しに影響を与えていると結論づけている。だが、学習者の発話に関する語用論レベルの分析は行われていない。このように、学習者の発話行為に対する母語話者の評価に基づいて発話を語用論レベルで分析した研究はほとんど行われていない。そこで、本稿は「依頼」という発話行為に対して母語話者が評価したコメントを基にして、学習者の発話を分析することにする。

3. 研究の目的

次の3点を目的とする。

(1) 母語話者が失礼な印象や不安を感じた学習者の発話行為を分析する。

(2) 同じ場面での母語話者の発話行為と比較して、違いを分析する。

(3) 学習者にとってどんな語用論レベルの知識が欠けているかを考察する。

4. 調査方法

4.1 データ

日本語学習者(以下NNSとする)3名と日本語母語話者(以下NSとする)2名のそれぞれと日本語教師とのロールプレイによる対話データを収集した[2)]。NNSの日本語レベルは、中級の中から後半で、表1にあるNNS-1とNNS-3の2名の大学院生は来日してから予備教育の日本語研修コースで日本語学習を始めた。540時間のコース終了後、NNS-1は、教室で学習したことはないが、 NNS-3は継続して216時間教室での学習を行っている。韓国の研究員であるNNS-2は母国の日本語学校で420時間学習してから日本で72時間教室学習を行っている。NSは大学院生で、NS-1は英語教育、NS-2は英語学専攻である。5名とも、教室活動としてのロールプレイには、あまり慣れていない。

表1：日本語学習者と母語話者のプロフィール

		性別	母　　語	年齢	滞日／海外滞在年数	日本語学習歴
NNS	NNS-1	女	インドネシア語	37	3年3カ月	540時間
	NNS-2	男	韓国語	38	11カ月	492時間
	NNS-3	男	スペイン語	35	4年3カ月	756時間
NS	NS-1	男	日本語	24	8カ月 (カナダ)	
	NS-2	女	日本語	26	1カ月 (英国)	

4.2 データ収集の方法

まず日本語教師2名がNNSに日本語学習歴や日本語使用状況などをインタビューする。これは、学習者が場の雰囲気に慣れリラックスすることと、日本語学習歴などの情報を得ることを目的としている。次に、ロールプレイのやり方を説明し、タスクが書かれたロールカードを渡した。タスクは目上の人への依頼で、[明日の午後5時、あなたの国の友達が千歳空港に着きます。あなたは迎えに行く約束をしましたが、急用ができて行けません。先輩に、あなたの代わりに迎えに行ってくれるように頼んでください。理由も考えてください。]という内容である。全て日本語で書かれているが、NNSが納得するまで、タスクの内容理解、質問、談話の組立てなどに要する時間を与えた。その後、日本語教師1名が相手を務め、ロールプレイを行った。録画は、ソニーの8ミリビデオカメラをNNSの正面に近い位置に

三脚で固定し、目線の高さに合わせて行った。操作は残りの１名の日本語教師が行った。

NSに関しては、大学院の学生の研究室で、日本語教師１名が同様の手順で行った。しかし、ロールプレイの相手と８ミリビデオカメラの操作は、同時に一人で行った。ロールプレイの時間は、NNSで平均４分50秒、NSで平均５分10秒であった。

4.3　母語話者による評価

上記のNNSのビデオを、日常留学生と接している大学教職員の日本語母語話者（以下、評価者とする）に見せ、自由に印象を言ってもらいコメントを収集した。評価者は、６名の大学教職員で留学生業務４名、カウンセリング業務２名である。性別は女性４名、男性２名、そして年齢は20代２名、30代１名、50代３名である。コメント収集は、ビデオをNNS１人ずつで停止し、気づいたこと、気になったことなど自由に言わせる方法で行った。調査者の視点の介入を減らすために、評価者へのインタビューは、話を促したり、疑問点を質問するだけにとどめた。インタビュー時には、８ミリビデオカメラで評価者を録画した。

5.　結果と分析

5.1　評価者のコメント

コメントは、文法、発音、談話展開、流暢さ、ストラテジー、非言語表現、雰囲気、など広い範囲に及んでいる。日常的に留学生と接していることから、①自分が対話していることを想定したコメントがある、②日常留学生に対して気になっていることが表面化したコメントがある、③誤用や問題点に関するコメントの方が多い点が特徴として挙げられる。①〜③のコメント例を次に記す

①：「考えながらぽつぽつ言われても、こちらも話しにくい」
　　「話していて楽な感じがする」
　　「あまり熱心に聞いてくれないような気がする」など。
②：「アジア系の女性は、『ね』と『よ』をよく使うみたいですね」
　　「割に留学生が『そうです』という言葉を使いすぎるのが、前から気になっていました」など。
③：「決めるときに、『思います』は、日本人だったらあまり使わないん

じゃないかなと思います」
「かなり上手なのに、敬語を使わないということは、気になります」
「何を相手が聞いているのか、きちんと聞いていないみたい」など。

評価者の全コメントの中から、失礼な印象を持った部分、不安に感じた部分、話していて疲れる印象を持った部分を下に挙げる。ただし、表情やジェスチャーなどの非言語表現に関するコメントで、このような印象に直接つながるものは得られなかった。「　」内には評価者のコメント例を示す。さらに、(　) 内はコメントした人を示す。評価者は、留学生業務4名をNT1 (20代女性)、NT2 (20代女性)、NT3 (30代女性)、NT4 (50代男性) とし、カウンセリング業務2名をNT5 (50代女性) とNT6 (50代男性) とする。

ａ) 失礼な印象

①終助詞「ね、よ」の多用

NNS-1に対して、NT4以外の5名の評価者がコメントした。

「ねとよが、半分ぐらいだったらもっといい。やっぱりちょっと多い気がする。先輩に口を利くにはこの話し方はまずいですよね」(NT2)

②語尾伸び

NNS-1に対して、NT2、NT3がコメントした。

「やたらに語尾を伸ばしているなあというのが印象的でした」(NT3)

③「私の代わりにいけますか」という依頼表現

NNS-3に対して、 NT2、 NT4、 NT5がコメントした。

④「～てあげます」の表現

NNS-1とNNS-2に対して、 NT5がコメントした。

⑤談話の展開：突然「明日、時間がありますか」

NNS-2に対して、NT3が、NNS-1とNNS-2に対して、NT5がコメントした。

「これが先生じゃなくて、女の友達だったら、この人何考えているんだろうと思わせますよね」(NT3)

⑥ネゴシエーションしていない。

NNS-1に対してNT1が、NNS-2に対してNT3が、NNS-1とNNS-2に対してNT5がコメントした。

「何かすごく脅迫的だったのね。ある意味ではすごく失礼なね。迎えに来いって感じでしたね。ネゴシエーションという観点に立つと」(NT5)

b）不安を感じさせる

①何も言わずに黙る

NNS-2に対して、NT5以外の5名がコメントした。

「考えているときに沈黙しちゃうんですよね。切れるんですよね。考えている間に投げ出しちゃっているのか、まだ考えているのかわからない」(NT3)

②文末：「申し訳ありません」のように「～ません」で終わる。

NNS-2に対して、NT2とNT3がコメントした。

「お願いするとき、申し訳ありませんで始めちゃだめ。そう言われると、どうしちゃったのかなと思う」(NT2)

c）話していて疲れる印象

①文が長くて、不自然。

NNS-2に対して、NT3とNT6がコメントした。

②話の繋がりが悪い。

NNS-2に対して、NT2、NT3、NT4がコメントした。

「話の繋がりという点では、聞いているのがちょっと辛かった。話していたら、あれ、どうしたのかなって疲れる」(NT2)

5.2 NNSとNSの発話データの分析

表2：発話の分析結果

		NNS-1	NNS-2	NNS-3	NS-1	NS-2
文数		34	56	44	67	84
終助詞	ね	17	4	0	12	4
	よ	2	0	0	5	0
	よね	2	0	0	2	5
フィラー	えー	4	2	12	0	0
	えーと	5	0	17	4	5
	えーとね	1	0	0	0	0
	えーとですね	0	0	0	4	0
	あの	1	0	2	19	26
	あのう	0	0	0	2	5
	あのね	2	0	0	0	0
	あのうですね	0	0	0	1	0
	ま	0	15	0	0	0
	まあ	4	7	0	2	0
	まー	0	13	2	0	0
	合計	17	37	33	31	36
文末	です/ますけど	9	5	1	1	0
	んですけど	1	1	0	13	14
	んですよ/よね	0	0	0	5	4
	んです-	0	0	0	4	9
	です、ます	4	15	22	9	1

上記の評価者のコメントに関するNNS発話を、NSと比較して、表2にまとめた。文の数は、主部（省略されたものも含む）と述部があるものを一つと数え、複文、連体修飾節などは節も一つとした。例えば、「迎えに行くっていう話をしてて」は、2文とした。

5.3 学習者と母語話者の発話データの比較

1）「ね」の多用に関して

NNS-1の「ね」の多用に関して、失礼な印象というコメントが多かった。「ね」に関しては人によって使用頻度がかなり異なり、NS間でも差がある。使用頻度の高いNNS-1とNSを比較すると、NNS-1はフィラーに3回、文節に6回「ね」を使用しているのに対して、NSは文節には全く使用していない。さらに、音声的に、NNS-1が「ね」を強く伸ばしていることで、強調されている。一方、NSは軽くそえるように発話している。ここで言うフィラーに使用した「ね」とは、「えーと」や「あの」などのフィラーに付加したものであり、文節に使用した「ね」とは、「名前は」や「日本語は」などの文節に付加したものを指す。

NNS-1：えーとね／あしたはね／えーと／東京から多分2時ぐらい／そしたら／新千歳空港に着くのは／多分3時ぐらいでしょうね
NS-1　：チャーリー／ていうんですけどね　　　　（／はポーズを表す）

2）フィラーに関して

フィラーに関しては、NNS、NSともに多用しているのがわかる。NNS-1の使用数が他の人の半分近いが、これはもともとの文の総数が少ないことと、フィラーとして「なんか」という単語を文節の区切りに7回使用していることによると思われる。NNS-2とNNS-3はNSとほぼ使用数が同じであるが、使用法が異なっている。NNS-2は、黙って考えていて頭の中で組立てが終わってから、「ま」とか「まー」と言って発話し始めている。このことが評価者に不安を感じさせていると考えられる。また、NNS-3は、「えー」と「えーと」が主でバリエーションが少なく、どのフィラーも同じ様な調子で発話されている。コメントの中には、NNS-3のフィラーに対して、悪い印象はないが、ちょっと気になるというのがあった。それに比べ、NSは、フィラーの音調が微妙に異なっている。例えば、文節をつなぐフィラーは、文頭のものに比べ非常に軽く短く発話されてい

る。また、NS-1の場合、「あのうですね」「えーとですね」は、依頼という聞き手に負担をかける用件を切り出すとき、及び聞き手の質問に答える際にフィラーを入れるときにのみ使用されていて、他の流れでは使用されていず、使い分けが明確であった。聞き手や聞き手にかかる負担に対して「です」という丁寧表現を付加することによって、フェイスを脅かす行為を緩和していると思われる。

NNS-1：あのね／なんか／あたしはね／友達が／えーと／新千歳空港が～

NNS-2：掲示板／あー掲示板じゃなくて／ま紙に／チェさんと／まーこのように／まあ持っていれば／十分／まーはっきり／する／まはっきり

NS-1　：あの／えーとですね／あの／ぼく／本当は／ぁの外国人の友達が／ぁの来るってことになってたんですよ

（「ぁの」は小さく短い音を示す）

3）依頼の発話行為に関して

依頼表現に関して失礼だと明示されたのはNNS -3の発話だけだったが、他のNNS二人の依頼表現に対しても、不適切（NNS-1）、不自然（NNS-2）というコメントがあった。

NNS-1：この時間／あたしね／なんか／むか／迎えに行きたいけど／なんか／ゼミがありますから／まあ／先生に相談して／ちょっとこの時間ができないから／先輩／どうですか

NNS-2：ですから／まー／先生が明日／わたしの代わりに／空港まで／迎えに行って下さいませんか／という／お願いですけれども／いかがでしょうか

NNS-3：えー／もしよろしかしたら／えーと／私の／えーと／えー／ま／私の友達／外国から来る友達は／日本語が全然わからないから／えーと／時間があれば／えー／私の代わりに／迎えに行けますか

NNS-1に関しては、どうですかという表現が不適切だというコメントと聞き手がいいと言っていないのに、勝手に話を進めていて失礼というコメントがあった。NNS-2に関しては、最後の「～というお願いですけれども」が不自然だというコメントがあった。 NNS-2の発話は、上記のよう

に全体的に省略が少なく、長く、書き言葉が混在した表現になっている。このことが評価者が疲れると感じる原因になっていると考えられる。さらに、談話の展開として人に頼むのにネゴシエーションしていなくて失礼な印象というコメントがあった。「迎えに行けますか」という表現を使用したNNS-3に関しては、この表現自体が失礼だというコメントがあったが、談話の展開の仕方として失礼だという指摘はなかった。逆に、依頼の内容や自分が行けない理由も明確で、「行ってあげようかって気持ちになる」というコメントもあった。

次にNSの依頼の発話行為を分析する。NS-1は、まず「あのう、頼みがあるんですけど」と言って始め、「明日の5時頃空いてます？」と時間を提示して聞き手の都合を聞き、そして事情を説明してから、下記のように用件を切り出している。一方NS-2は、事情説明をしてから、用件を切り出している。

NS-1：で／それで／あの／申し訳ないんですけど／あの／もし／あの差し支えなければの話しなんですけど／あの／行ってもらえないかなあと思うんですけど

NS-2：で／あの／ちょっと／もし／あのお時間があれば／ちょっとあの／ちょっと仕事なんで
あの／あの／ちょっと／あの私の友達なんで／～／うん日本語もちゃんとしゃべれる外国人なんで
ちゃんと／あの対応できると思うので／行っていただけると／嬉しいんですけど

用件を切り出すまでの談話の展開の仕方は異なるが、両者とも聞き手にかかる負担に対する遠慮を表明するために（NS-1)、また聞き手への負担を減らすような情報を提供するために（NS-2）何度も文を言い足しているのがわかる。さらに、文頭には躊躇を示すフィラー「あのう」「あの」が必ず挿入されている。文末は、断定の言い方を避けて、曽（2000）の言う発話断定回避[3]の「～けど」が使用されている。表2のようにNNSも「～けど」を使用しているが、「～んです」の使用がほとんどなく、例えば「お願いがありますけど」のような表現になっている。したがって、発話断定回避の機能を果たしていない。

6. まとめ

以上のNNSとNSの発話行為の比較分析から、表現形式としては、NNSの発話には「〜んですけど」の使用が非常に少ないといえる。さらに語用論上の問題点として、NNSの発話は、①聞き手の負担に遠慮を示す発話行為が不足している、②聞き手の負担の軽減を提示する発話行為が不足している、③聞き手の反応に応じたネゴシエーションが不足していることがわかった。このことから、談話展開の中で、聞き手に対して依頼のための遠慮や負担の軽減を表明しながら、聞き手の反応に応じてネゴシエーションすることが求められていると思われる。

「依頼」か「勧誘」かなどの発話行為の目的によって、さらに同じ「依頼」であっても、その内容によって、聞き手への負担の度合いは異なるであろう。たとえば、依頼においても、鉛筆をかして欲しいと頼む場合と本稿のような代わりに空港に迎えに行って欲しいと頼む場合では、明らかに負担の度合いが異なっているわけである。したがって、聞き手への負担の度合いや聞き手との人間関係によって、負担軽減や遠慮の発話行為も異なってくると言える。そこで学習者は、「依頼」の場面で言語形式を丁寧にするだけではなく、その負担の度合いに応じて聞き手への負担軽減を表明したり、遠慮を表明したりすることで、コミュニケーションが円滑にすすめられることを認識する必要がある。ただし、これらは認識するだけで発話できるようになるわけではないので、聞き手への負担が異なる状況での会話練習において談話展開、ストラテジーなどを習得する必要があるであろう。今後は、インプットの質と量に焦点を当てて、縦断的に語用論レベルの習得状況を調査する必要があると思われる。

本研究は、文部省科学研究費補助金基盤研究（B）（2）（課題番号12480058、代表者小林ミナ）による研究成果の一部である。

注：

1）Metapragmatic informationとは、言語使用についての定義や説明をする知識のことである。例えば、場面や相手によって、どのように敬語を使い分けるか説明する知識である。

2）日本語学習者の発話データと評価者のコメントは、小池、原田が第四回国際日本語教育・日本研究シンポジウム（於香港、1999）で口頭発表

した時のデータを使用した。

3）曹（2000）は、自然発話資料から、言い終わりの「けど」で終わる発話は「発話緩和」「発話補完」「発話断定回避」の三つの談話機能があるとし、前者二つはくつろいだ状況で使われている傾向があるのに対して、後者の「発話断定回避」はあらたまった状況で使われている傾向があると報告している。

参考文献：

生駒知子・志村明彦（1993）「英語から日本語へのプラグマティック・トランスファー：断りという発話行為について」　『日本語教育』79号 pp.41-51

柏崎秀子（1993）「話しかけ行動の談話分析－依頼・要求表現の実際を中心に」『日本語教育』79号　pp. 53-63

小池真理（1998）「学習者の会話能力に対する評価に見られる日本語教師と一般日本人のずれ」『北海道大学留学生センター紀要』第２号 pp.138-156

小池真理（1999）「日本語学習者に接する職業の母語話者の学習者の日本語運用に対する評価」第四回国際日本語教育・日本研究シンポジウム発表資料

西郷英樹（1997）「日本語学習者の発話に対する日本語母語話者の印象－「断り」と「要求」という２つの言語行為を通して－」『平成10年度日本語教育学会春季大会予稿集』pp.39-44

曹英南（2000）「『けど』で終わる発話の語用論的研究－『言い終わり』の『けど』を中心に」『言語文化と日本語教育』pp.89-100　お茶の水女子大学日本言語文化学研究会

高橋里美（1999）「教室内における中間言語語用能力習得の可能性」『第二言語としての日本語の習得研究』３号　pp.111-115

広瀬研也・小野由美子・森勇樹・森清隆（1999）「日・中・韓母語話者の『断り』発話行為」第四回国際日本語教育・日本研究シンポジウム　発表資料

Kasper, G. (1989) “Variation in interlanguage speech act realization.” In S. Gass, C. Madden, D. Preston, & L. Selinker (Eds.), Variation in in second language acquisition: Discourse and pragmatics, 37-57.

Clevedon: Multilingual Matters.

Koike, D. A. (1989) "Pragmatic competence and adult L2 acquisition: Speech acts in interlanguage." The Modern Journal, 73, 279-289.

Hadden, B. L. (1991) "Teacher and nonteacher perceptions of second-language Communications." Language Learning, 41, 1-24.

Okamura, A. (1995) "Teachers' and nonteachers' perception of elementary learners' spoken Japanese." Modern Language Journal ,79, 29-40.

Thomas, J. (1983) "Cross-culture pragmatic failure." Applied Linguistics, 4, 91-112.

資料①　学習者のロールプレイのスクリプト

文字化の際に使用した記号

－　：「－」の前の音節が長く延ばされていることを示す。

、　：ポーズがあり、さらに話が続く可能性があることを示す。

。　：下降のイントネーションで、文が終了することを示す。

？　：疑問符ではなく、上昇イントネーションを示す。

（1）：（ ）の中の数字は沈黙の長さを示す。単位は秒。

{ }　：{ }の中の行動は非言語行動を示す。例えば、笑いやジェスチャーなど。

〈NNS-1〉

S：あ、先輩。　　　えーと、明日ちょっとお願い、ありますけど、
T：　　　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　えー。

S：あのね、なんか、明日はね、友達が、えーと、新千歳空港が、えー、
T：

S：いますから　　　そしたら、なんかあたし、迎えに、いきーたいけど、
T：　　　　　うん。

S：なんかちょっと、用事がありますので、ちょっと先輩が、時間ありま
T：

S：す？　　　　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　　　えーと
T：　　明日ですか？　　　えーと、何時に千歳に着くんですか？

S：ね、あしたはね、えーと、東京から多分2時ぐらい、そしたら、新千
T：

S：歳空港に、着くのは、多分、3時ぐらいでしょね。　　　　　ええ。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　そうですね。

S：　　　　ええ。　　　　　　　　　　　　　　　はい。そしたら、先輩
T：東京を2時に出発したら、2時か3時半ですね。　　　　　えー

S：が時間ありますか。この時間、あたしね、なんか、(1.4) むか、む
T：

S：かえに行きたいけど、なんか、ゼミがありますから。まあ、先生に相
T：

S：談して、ちょっとーこのー時間ができないから、先輩、　　　どうで
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あー、そうですか。

S：すか？　　　　　　　　　　　　　　　　そうですね。まあこれは、
T：　　　それは、えーと、外国人の方ですか？

S：ね、インドネシアーの人なんですけど、　　　　いや、でもなまえ、
T：　　　えー。　　　　　　　　　　　　あーそうですか。

S：こっちに書いてありますから、多分　見やすいと思いますけど、わた
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　あっ

S：しも、友達に、電話して、今度なんか、　先輩があの、わたしの代わ
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　ええ。

S：りに、えー、迎えに行きますので、多分、大丈夫と思いますけどね？
T：

S：　　　　　　　　　えー。
T：あっ、じゃあその友達は、えーと、私が代わりに迎えに行くことを知

S：　　　　　　　あ、はい、はい。　　　　　　　　はい。
T：っているんですね？　　　　あの、もし、私が行けたらね。　　わか

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　そうですよね　はい。
T：りました。3時半だったら、大丈夫だと思います。

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あっ、そうですね。名前、
T：大丈夫だと思うけど、えーとその人は、えー　　　　　　　　どんな

S：　　　　　名前はねー、スパランっていういう人です。
T：人ですか？　　　　　　　　　　　　　　　　　　スパラ、男の人

S：　　　　男の人。背が高いし、そしたら、あの、ひげ？　ひげがあり
T：ですか？　　　　　　　　　　　　うん。　　　　　ひげがある？

S：ますよ。だから、あまり、太くないけど。　　はい。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　うん、　何才ぐらいの人で

S：　　27才ぐらい。　　　　　　はい。　　　　　　　　　　あ、今度、
T：すか？　　　　　27才ぐらい？　　写真持ってます？

S：さしん、えー、あげます。　　　えー、えー。
T：　　　　　　　　　　　　　あ、しゃしんがあれば、たぶんわかると思

S：　そうですね　　　　　　　　　いや、日本語はねー、多分わか
T：う。　　　　そのひとは、日本語が話せますか？

S：らないけど、わからないけど、あのあいさつが、ちょっとできます。
T：

S：　　　　　　　　　はい。　　英語は大丈夫ですよ。
T：あー、そうですか。　英語は？　　　　　　　　　あ、はい、わか

S：　　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　はい。
T：りました。　　　そして、私は迎えに行ってから、　　　どうしたら

S：　　　　　　あのね、あのね、えーまあ、電車で、電車、はい、電
T：いいのかしら。　　　　　　　　　　　　　　　　　　えー。

S：車で、むこ、新千歳に行って、　　　そしたらまあ、
T：　　　　　　　　　　　　　　えー。　　　　　　その人に、その

S：　　　　あう、えー、あ、そうですね。
T：人に会うでしょ？　　　　　　　　それから、どこかに連れていけば

S：　　　あー、そうですね。　会えたら、会えたら、なんか、彼は、
T：いいですか？　　　　どうしたらいいですか？

S：彼彼は、えーと、寮、じゃなくて、ほくだい大学の一学生だから、こ
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ふーん？

S：んど、留学生の会館に、えーと、この会館にーいますから。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あっ、そう。

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　そうです
T：じゃ、えーと、彼を留学生会館に連れていけばいいんですね？

S：よね。はい。　　えーえー。　　　はい。　　　　　　　さんじはん
T：　　　　　　はい、わかりました。　　　じゃあ、3時半にちとせく

S：　　　　　　　はい。　　　　　　えっ、はい。
T：うこうですね。　　　で、写真を、　　　　　　もらえばわかります

S：　はーい。よろしくお願いします。　　　　　　　　　　はい。
T：ね？　　　　　　　　　　　　　　はい、わかりました。　　　は

S：
T：い、どうも。

〈NNS-2〉

S：先生。　ちょっとお願いがありますけど。　　　　　　(3.2)あ、
T：　　はい。　　　　　　　　　　　　　　あっ、何ですか？

S：もともとは、　　あ、すみません。　あした、まー、ごご、(1.4) 正
T：　　　　　　　えー。　　　　　　はい。

S：午ぐらい、正午ごらい、ま、時間ありますか？　　　　　　　　　は
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　明日の12時頃ですか？

S：い、そうです。　　　　　　　　　　　　　　よろしいですか？
T：　　　　　　　明日は授業もないし、暇ですけど、

S：　　　では、まあ、申し訳ございません。　　　　　　　　　わた
T：はい。　　　　　　　　　　　　　　　はい、何でしょうか？

S：しの友達が、　　　韓国から、まー、千歳空港に、ま飛行機で来る、
T：　　　　　　はい。

S：　　　　　　明日です。　　　　　　ですが、あー、本来は、わたし
T：明日ですか？　　　　　はい、はい。

S：が、まー、(1.2) 迎えに空港まで、行く予定でしたが、　　　まー、
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　えー。

S：友達と約束しましたが、　　　わたしは、急に用事があって、ちょっ
T：　　　　　　　　　　　　　はい。

S：と困りますね。ですから、まー、先生が、明日、わたしの代わりに、
T：

S：空港まで迎えに行ってくださいませんか、という、お願いですけれど
T：

S：も、　　　　　　　いかがでしょうか。
T：　あーそうですか。　　　　　　　　　　あっ、構いませんけれども、

S：　　　　　　　　　　　　　　　千歳空港に、到着する時刻は、
T：えーと、飛行機は何時に着くんですか？

S：午後1時、位と思います。
T：　　　　　　　　　　あー、そうですか。じゃ、12時半頃行って

S：　　　　　　　　　　はい。まー、電車に乗れば、ま、30分ぐら
T：いれば、間に合いますね？

S：いかかりますから、ま、十分だと思います。
T：そうですね？　　　　　はい。　　　　　あ、そうですか。わかりま

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　う一、
T：した。えーと、そのお友達は、女の方ですか？男の方ですか？

S：男、男、男の人です。　　　　　　　　　　　　チェー、といい
T：　　　　　　　　　　あっ、そうですか。お名前は？

S：ます。　　　　　　　　はい、そうです。
T：　　　チェさんですか？　　　　　　　　　　えーと、どんな人でしょう

S：　　　あ、特徴ですか？　かおなど、　(3.2) たぶん、まー、洋服
T：か。特徴　　　　　　　　わからないと、

S：を着て、　まあ、洋服、背広ですね、背広。
T：　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　　あ、はい、スーツです

S：　　はい。髪は、わたしのような状態ですし、　　　眼鏡をかけた
T：ね。　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　はい、はい。

S：人ですけど、(2.7)　　　まあ、わたしと、ちょっと、ま似ている
T：　　　　　　わかるかしら。

S：かもしれませんが、{ハッハハハ}
T：　　　　　　　　　　　　あーそうですか。えー、わかるかしら。

S：　　　　　(5.2) もし、うーん、掲示板、あー、掲示板じゃなくて、
T：行ってすぐに。

S：ま、紙に、　チェさんと書いて、まー、このように、まあ、持ってい
T：　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　　　えー

S：れば、十分、まー、はっきり (2.2)　する、ま、はっきり、はっきり
T：　はい。　　　　　　　　　　そうですね。

S：見せるかもしれません。
T：　　　　　　　　　　そうですね。じゃ、私は、チェ、チェという、

S：　　　　　　　　わたしが先生に、紙に書いて、あげます。
T：書けないので、書いて　　　　　　　　　　　　　　そしたら、

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　はい。
T：その書いてくださったのを、こう持っていれば、わかりますね？

S：
T：はい。じゃ、そうします。それで、あのチェさんが、空港に着いたら、

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ああー　　空
T：わたしは、チェさんをどこへ？　その後、どうしたらいいですか？

S：港で会って、札幌駅まで、来たら、ま、わたしが札幌駅まで、ま、迎
T：

S：えに、行きます。　　　　　　　　　　はい。
T：　　　　　　　　あー、そうですか。　　わかりました。じゃ、札幌
S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　札幌駅の北口、ですね。
T：駅のどこに連れていけばよろしいですか？　　　　　　　　　　はい。
S：きたぐ、北口の、北口、の前には、北洋銀行の支店、支てん、があり
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あ、はい。
S：ます。　　　　　まあ、そこだったら、ま、全然問題ないと思いま
T：はい、わかります。
S：す。そこで、ま、わたしが、午後、(1.8) 3時、あ、すみません、3
T：
S：時半ぐらい、3時半に、そこへ行きますから、ま、そこで、あいたら
T：　　3時半
S：まーいいと思います。
T：　　　　　　　　わかりました。じゃ、そのチェさんを連れて、3時
S：　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　　　はい。
T：半に　　えー、札幌駅の北口の北洋銀行の前ですね？　　はい、わか
S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　はい、そうです。
T：りました。えーと、必ず来て下さいね。　　　　　　　チェさんは、
S：　　　　　　　　　　　　日本語は、(2.6) 日本語は、すこーし、すこ
T：日本語がわかりますか？
S：ーしだけ、しゃべる、しゃべると思いますけど。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あ、そうですか。わ
S：　　　　　　　　　　　{アハハハ} ちょっと
T：たしは、韓国語が、話せませんから。　　　そうですね、わかりま
S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　到着時間、時
T：した。えーと、じゃ、12時、あ、1時の飛行機ですね？
S：刻ですね？　　空港に到着、(1.2) 時刻が、ま、午後1時、(2.4) 私が、
T：　　　　はい。
S：迎えに、札幌駅の、北口の、まー、銀行の支店に、(2.3)　行って、
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　はい。
S：まー、会う時刻は、午後3時半。　　　ま、いいでしょうか。
T：　　　　　　　　　　　　　　はい。　　　　　　　　　　わかり
S：
T：ました。はい。えーと、代わりに、わたしが空港に行くことを、チェ

S：　　　　　　　　　　　　　　今は、今は、まー友達はまあ、知ら
T：さんは、しっ、ご存じではないです

S：ないんですけど、　　　私が夜、ま、今日の夜ですね？今日の夜に、
T：　　　　　　　　えー。

S：韓国に電話をかけて、私の代わりに、ま、えー、私の先生ですけど、
T：よね？　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　えー。

S：まあ、えー、まあ、こんな方、こんな様子、様子の女の方が、迎え
T：

S：に、行くと、まー、電話で、電話で、知らせます。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あー、そうしてく

S：
T：れると、ありがたいです。そうすると、あの、いきなり驚かれても困

S：
T：ると思いますので。じゃ、申し訳ないですけど、あの、今日電話して

S：　　　　　　　　　　はい。　　　　　　　　　　　　　　　はい。
T：おいていただけますか？　　　はい、じゃ、わかりました。　　　明

S：　　　　　　　　　　　　　　　はい、どうもありがとうございま
T：日必ず、あの迎えにいきますので。

S：した。
T：　　　はい、どうも。

〈NNS-3〉

S：Aさん、お願いがあります。　　　　　　　　　えーと、明日は、えー
T：　　　　　　　　　　　　　　はい、何ですか？

S：と、ペルーから友達が、えー、日本に、えー、来ます。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あ、そうです

S：　　でも、わたしは、えーと、先生と、えー、釧路まで行かなきゃい
T：か。

S：けないので、　　　　　　　　　　　　　　そう、じけんを、一緒にやら
T：　　　　　　あ、釧路、行くんですか。

S：なきゃいけないので。えー、突然、先生がそう言っていました。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あ、

S：　　　　　　うん。　　　　　　　　　　　　　　　　　　えーと、ま
T：そうですか。　　　え？何時に、いくんですか？釧路に。

S：一、いちにちに行きます。何時に？えー、9時ぐらい、行きます。朝
T：

S：の9時ぐらい。　そう、いちにち、
T：　あ、一日で帰って来られるんですね。

S：そう、うん。　うん、明日は、明日は、札幌まで帰ります。
T：　あ、じゃ、困りますね？

S：　えー、もしよろしかしたら、えーと、私の、えーと、
T：あ、そうですか。

S：えー、ま、わたしの友達、外国から来る友達は、日本語が全然わから
T：　ええ。

S：ないから、えーと、(2.3) 時間があれば、えー、私の代わりに迎えに、
T：

S：行けますか？　うん。　明日の夜
T：　明日ですか？　え、何時頃つくんですか。

S：の7時、夜7時、えーと、
T：　Pさん、7時に戻るのは、無理かしらねー？

S：うん、そう、無理です。
T：　そう。遠いものね？　あっ、そー、7時に千

S：　はい、千歳空港。
T：歳空港？　あー、そうですか。そのお友達は、でも、

S：　はなせないです。
T：あのう、日本語はなせないですね？　あの、わたしスペイン

S：　{アハハハハ}ほんと？　でも、えーと、もし、えー、
T：語、全然話せない。{アハハハハ}

S：私は、えーと、スペイン語と日本語の、えー、ダイ、ダイアログ、ダ
T：

S：イアログみたいの作ります。えーと、えー、私の、えーと、えーと、
T：

S：私の友達に、書いたノートを最初に出して、彼はすぐ分かるだと思い
T：　ええ。　ええ

S：ます。
T：　あ、そうですね。うーん、そうじゃないと、最初日本に来てね、

S：
T：来た人が全然スペイン語、わかんないと、ちょっと、不安ですよね？

S：そうです。　　　　　　　　問題ないと思うけど、えーと、もし、辞書
T：　　　　そうですよね。

S：とかあれば、私は、スペイン語と日本語の辞書があります。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　あ、あ、ほん

S：　簡単な言葉を使ったら、彼のホテルまで、　　　　　　　　えー
T：と？　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ホテルどこですか？

S：と、京王プラザホテル
T：　　　　　　　　　　あ、京王プラザホテル、え、何？あの、どのぐ

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　えーとまあ、２週間ぐら
T：らい日本にいるんですか？旅行ですか？それとも、

S：い、　　　　　　　　いります。
T：　　２週間ぐらい、ふーん？　　　じゃ、Pさんは、次の日には、P

S：　　　　　　　はい、はい、次の日には、あの、私は、釧路から、え
T：さんは、来られますね？

S：ーと、帰ってから、すぐホテルまで行きます。
T：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　じゃ、ホテル、京王プ

S：　　　　　　　　　　はい。　　　　　　はい、そう、そうです。
T：ラザホテルに連れていけば、　いいですね？　　　　　　　　あ、あ、

S：　　　　　　　　　　　はい。
T：そうですね？７時ですね？　　大丈夫ですけど。全然知らないので、

S：　　　　　　　　　　　　あの、看板を、こやって持って、私は、
T：顔とか、とか、わかんないでしょ？

S：私はPの友達。　　　　　　　　　私は、スペイン語で書いて、
T：　　　　　　あっ、そう、書いて。　　　　　　　　　　　　　あ、

S：　　　　　　　　　　　　うん、そうです、そうです。
T：うん、Pさんが書いてくれる？　　　　　　　　　　　わあ、そう。

S：私が、書きます。　　　　　　　　　そう、すぐわかります。わ
T：　　　　　　　　そう、それを出したら、

S：かると思います。
T：　　　　　　　　はい、わかりました。えーと、飛行機は、飛行機の

S：　　　アナ、アナです。　　　アナの７時。
T：会社は？　　　　　　　アナ。　　　　　　はい、わかりました。じ

S：　　　　　　　{ハハハハ}　　　　　　うん、看板みたいの。
T：ゃ、Pさん、その{ハハハハ／ジェスチャー}　　　　　　　　それと、

S：　　　　　　　　　　　　　　作ります。　　　　　　　　えー
T：ダイアログ、書いたの、くれますか？　　　いつ、くれますか？

S：(1.2) いつくれますか？　あ、あー、いま、すぐ、作ります。
T：　　　　　　　　いつぐらい？　　　　　　　　　　　あ、え、

S：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　はい、お願
T：あ、そう、じゃ、お願いします。じゃ、行って来ますね？

S：いします。　　　　　　　　　　　　　　　　　そう、男の人。
T：　　　　あ、そう、男の人ですか？女の人ですか？

S：　　　　　　　　　　　　{ハハハハ} そうです、若い人。
T：あ、男の人。若いひとですか？ {ハハハハ}　　　　　　はい、は

S：　　　　　　　　　　　　はい、お願いします。　　どうも。
T：い。じゃ、行ってきますね？　　　　　　　　はい。

Journal of the International Student Center Hokkaido University No. 4 (2000)

What type of learners' spoken Japanese irritates native speakers ? : Comparing learners' and native speakers' spoken Japanese in the communicative act of requesting

KOIKE, Mari

This paper is a attempt to study what type of learners' spoken Japanese irritates native speakers and how learners' and native speakers' spoken Japanese differ in the communicative act of requesting. Five native non-teachers watched video-taped roleplays of three Japanese learners and evaluated their performance in terms of their own impressions. Learners' spoken Japanese was analyzed on the basis of the comments and compared with two native speakers' spoken Japanese.

The results suggest that non-teachers are irritated by ① overuse of the sentence-final particle "ne", especially at the end of phrases, ② the method of introducing requests, ③ the expression of the request, and ④ discourse with low negotiation. Compared with native speakers' spoken Japanese, learners' Japanese showed ① less speech acts which express hesitation for imposing on the listener, ② less speech acts which express reduction of the imposition on the listener, and ③ less negotiation according to the listener's response.